

令和8年度 府立清明高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 計画段階

学校経営方針(中期経営計画)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「自分を知り、人とかわり、ポジションをとる人」を育成する。 そのために、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相互にリスペクトする。 2 安心して自ら選び、学ぶことができる環境づくり。 3 アウトプット型学びの推進。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 多様な教材やオンデマンドを活用した自由進度学習の実施や通信教育の部分的実施、探究的な授業の充実などにより生徒の学習の個別最適化が進み、安心して登校する意欲が高まった。今後も生徒が自ら学ぶ力を発揮し、学ぶ楽しさを実感できるためのさらなる工夫が求められる。 2 学校行事の内容の充実や地域連携の取組、年次をまたいだ総合的な探究の時間の取組、生徒が企画・発信する活動の充実等により、学校生活への積極的な参加とチャレンジ・アウトプット機会の増加が見られた。今後も主体的・協働的な活動や社会参画の機会の充実を図ることが望ましい。 3 新しいタイプの教室やチルスペースの拡充、施設のU D化、校内ボランティアやワーキンググループ活動の継続等により、学習者起点による学校の魅力化が進んだ。 4 学校DE&Iを実現するための各種研修や発信、通級指導や合理的配慮の充実等により、個々の生徒に応じた指導の充実を図ることができた。今後もあらゆる教育活動のユニバーサルデザイン化に向け、外部連携や主体的な校内研修をより充実させていくことが求められる。 5 持続可能な教育活動を実現するため、教職員の協働体制の構築と長時間労働の縮減が進んだ。「働きやすさ」や「働きがい」を感じつつ、健康や精神的な充足感を得られる職場づくりの継続が求められる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が自ら学ぶ力を発揮して「学ぶ楽しさ」を満喫できるよう、教育課程の見直しを進めるとともに、個別最適な学びと協働的な学び、指導と評価の工夫改善や授業のDX化の研究・実践を進める。 2 学校内外での新たなチャレンジやアウトプット機会の創出と探究的な活動を発展させ、生徒の主体的・協働的な活動や社会参画の機会を充実し、一人ひとりの自己実現に繋げる。 3 「生徒をリスペクトする」「生徒に自信を返す」という信念を共有し、内外の評価を活用しつつ、学習者起点による学校の魅力化を図る。 4 教育活動のユニバーサルデザイン化を充実・発展させるための本校ならではの手法を研究・実践する。 5 ダイバーシティとワークライフバランスに係る取組を進める。

領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	学校の魅力化に係る校内組織の活動の充実	シン・会議や研究開発学校、DXハイスクール等それぞれのプロジェクトチームが多様なアイデアを活かした新しい事業を展開・アウトプットし、授業のDX化の充実を図る。		
	教育活動のユニバーサルデザイン化の充実	教職員の多様性を尊重しつつ、高度な研究・実践を継続できる協働体制を構築することで、教育活動のユニバーサルデザイン化をさらに充実させる。		
学習支援	教育課程再編の推進と新たな学びのデザインの開発	学校設定科目や探究活動の再編、履修・単位認定の柔軟化等を通して教育課程の再構築を進め、生徒が自ら学びをデザインできるカリキュラムについて研究・開発する。また、研究成果について学校内外に発信する。		
	生徒同士で学習を支えあう仕組みの構築	学習の困りや悩みを生徒同士でサポートし合う仕組みを構築することで相互にリスペクトする風土を醸成するとともに、安心して学ぶことができる環境づくりを推進する。		

領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒支援	チャレンジ・アウトプットの機会の創出	生徒が地域社会や学校外の諸機関等と関わったり、協働しながら主体的に活躍できる環境(時間・場所)を創造する。		
	学習者起点による学校の魅力化	在校生の多様なニーズを把握し、生徒会や清明ワーキンググループ等を中心に検討し、本校のユニバーサルデザイン化に生徒が主体的に関わり働きかけられる機会を創造する。		
進路支援	進路学習の個別最適化	オンデマンド動画やポートフォリオを活用して、進路学習の個別最適化を進める。		
	進路情報活用のユニバーサルデザイン化	ロイロノートの資料箱内に進路情報を蓄積・整理することで、情報が活用しやすい環境を整備する。		
教育相談	ユニバーサルデザインの視点を備えた相談支援体制の構築	日常的な対話から生徒の「困り感」をキャッチするスキルの向上を図る。また、特別支援教育に合わせて教育相談についても良い対応例等を発信し、教職員間で共有する。		
	チャレンジできる環境の充実	ボランティア清掃や委員会活動を活用し、安心していきいきと過ごせる学校づくりに多様な生徒が主体的にかかわれるしくみを充実し、「やってみたい」を創発する風土を実現する。		
総務企画	学校の魅力化を推進する広報活動の充実	生徒主体の広報活動をつばめラジオ等を企画運営することによって活発化させる。新たな説明会の実施や個別相談会を整理しなおし、本校の理解を深める機会を増やす。		
	生徒主体の探究活動	地域と連携した探究活動に生徒がより積極的に取り組めるよう、府立高校特色化事業を活用したサポートを行う。		
	DXハイスクールを活用して探究的な授業を充実	高度なICT機器や周辺機器を整備し、生徒が探究的に学べるような授業と研修機会を工夫する。		
	読書活動を支援し、探究活動や主体的な学びを支える学校図書館運営	探究活動や自主的・主体的な学びを支える「学習・情報センター」として、知的好奇心を刺激し、課題解決や学ぶ楽しさにつながる情報発信を行っていく。		

領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
年次	F年次 安心して挑戦できる学習環境の構築	総合的な探究の時間やフレスタ、特別活動などを通し、失敗を許容し挑戦できる心理的安全性の高い集団をつくり、校内外の相談体制やピアサポート(生徒同士の支援)を積極的に活用する。また、校内外のプロジェクトへの参加を促進したり、外部人材と対話する機会を設定する。		
	M年次 多様な他者とのかかわりやチャレンジの推進及び社会参画の促進	あらゆる教育活動を通して、個々の個性や得意を生かしつつ、校内外を問わず多様な人と協働して取り組む活動の機会を設定する。あわせて、学校づくりへの参画を促進し、主体的に社会と関わる態度の育成を図る。		
	S年次 社会との接点の中で自分の強みを発見し、未来を具体的に描き出す力の育成	フレスタプラスやLHR等の機会を活かし、地域住民との多角的な交流を促進することで、社会への関心を高め、主体的かつ積極的に社会に関わる力を養う。		
	G年次 希望進路実現に向け、自ら判断し、挑戦できる機会の充実	特別活動や総合的な探究の時間だけでなく、学校内外での活動を通して、生徒自らが将来像を描けるような働きかけや積極的な情報提供をするとともに、進路支援部との連携を強化し年間を通して細やかな指導体制を構築する。		
事務部	学ぶ楽しさを満喫し、安心して自ら選び、いきいきと学べる教育環境の整備	教科分掌と連携し、生徒1人1人が落ち着くことができ、学ぶ楽しさを実感できる環境の整備や授業のDX化を更に進めていくために設備更新等を行う。		

(評価の基準 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった)